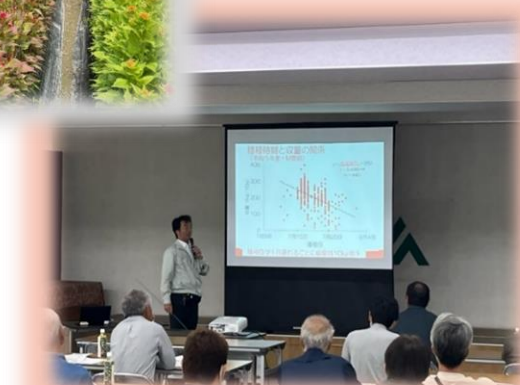


令和7年度

普及活動成果集



たくましい経営体の発展と、
がんばる新規就農者の定着を
わたしたちは全力で応援します。

令和8年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

はじめに

田川普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画が示す5つの目指す方向のもと、『たくましい経営体への発展と、**が**んばる新規就農者の定着を、**わ**たしたちは全力で応援します。』をスローガンとして、「人づくり」、「ものづくり」、「地域づくり」を重点活動目標として普及活動を展開しています。

活動に当たっては、管内農業者の皆様、市町村や農業委員会、JAをはじめとする関係機関の皆様にご理解とご協力をいただき、この場をお借りして、皆様に感謝申し上げます。

令和7年度は、普及指導計画において「環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地の育成」並びに「田川地域の将来を考える担い手づくり～新規就農者の定着と担い手の安定経営～」を重点課題に位置付けるとともに、女性農業者の活躍促進、水田農業担い手の経営強化、野菜・果樹・花き産地の維持拡大の課題に取り組んでまいりました。

この成果集は、本年度の普及活動で成果の上がった事例や地域での新しい取組等をわかりやすく取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

昨今の農業を取り巻く情勢は、高齢化の進行による担い手の減少、異常気象や病虫害被害による生産の不安定化、資材コストの上昇による収益性低下等、依然として厳しいものがあります。

普及指導センターとしましては、今後も関係機関をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーと連携し、職員一同、一丸となって、農家経営の改善と特色ある田川地域農業の振興に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

センター長 山下 和也

(表紙の写真説明)

- 左上・・・なしの剪定講習会（果樹花き係）
- 右上・・・いちごの新規就農者向け専門研修会（野菜係）
- 中央・・・盆出しケイトウの生産状況調査（果樹花き係）
- 左下・・・地元女性農業者の現地視察研修会（地域係）
- 右下・・・安定生産に向けた大豆播種前講習会（水田農業係）

目 次

1 普及活動の主な成果	1
(1) 環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地育成	
(2) 田川地域の将来を支える担い手づくり	
(3) 管内の女性リーダーとなる農業者の活躍促進	
(4) 水田農業担い手の経営強化	
(5) ICT 技術を活用した施設野菜の生産性向上	
(6) 高品質安定生産によるぶどう・なし産地の維持	
(7) トルコギキョウ産地の維持及びケイトウ産地の拡大	
2 管内の動き（トピックス）	10
(1) 青年農業士相互情報交換会を開催	
(2) 大豆共進会及び麦作共励会で管内経営体が受賞	
(3) 施設園芸の高温対策現地研修会の開催	
(4) 福岡県花き品評会（夏秋咲きギク）で福岡県知事賞を受賞	
3 参考資料	12
(1) 普及指導センターの活動体制	
(2) 令和7年度農業生産の概要	
① 気象の概要	
② 主な品目の生産概要	
(3) 主な実証ほ・展示ほ一覧	
(4) 現地活動情報一覧	

1 普及活動の主な成果

(1) 環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地育成

1 課題化の背景

令和4年3月策定の「福岡県農林水産振興基本計画」では、目指す方向の一つとして「持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進」が位置付けられています。持続可能な農業を実現するため、化学肥料低減技術、化学合成農薬低減技術及び温室効果ガス削減技術といった環境に配慮した農業生産技術の定着に取り組みました。また、新たな品目として導入が始まった白ねぎ、さつまいもについて、環境に配慮した栽培に取り組む新産地育成を目指しました。

2 対象概況

JAたがわ生産部会（麦・大豆部会 172 戸、添田園芸部会 38 戸、赤村産直の会 5 戸、いちご部会 12 戸、アスパラ部会 14 戸、ナス部会 15 戸、ミニトマト部会 3 戸、小松菜部会 18 戸、花き部会 55 戸）、（株）鳥越ネットワーク、白ねぎ部会 7 戸、さつまいも生産者 3 戸

3 活動の内容

(1) 環境に配慮した技術の導入

アスパラガス、夏秋なす、小松菜、花きの生産者に対し、過剰な施肥を抑制するため、土壌診断結果に基づく施肥改善の提案を行いました。また、水稻における緑肥作物の活用、ミニトマト、夏秋なすでの天敵導入、トルコギキョウにおけるフェロモン資材を活用した農薬低減技術の実証、さらに温室効果ガス排出削減技術として夏秋なすでの紙マルチ、トルコギキョウでの有機物（ベラボン、バークたい肥）マルチの導入について試験を行い、成果のあった新技術を講習会で推進しました。



トルコギキョウ有機物マルチ試験

(2) 環境に配慮した新産地の育成

白ねぎとさつまいもの安定生産のため、定期巡回を実施し、病害虫対策を指導しました。さつまいもでは、関係機関や生産者と連携して、栽培技術の取得のため先進地調査をしました。また、有機質肥料による減化学肥料栽培を実証しました。



さつまいもの先進地調査

1 普及活動の主な成果

4 主な成果

(1) 環境に配慮した技術の導入

土壌診断結果に基づく施肥改善の提案により、適正な量や時期での施肥が実現するとともに、小松菜部会では詳細な土壌分析を実施するなど、環境に配慮した土づくりに対する生産者の意識改善が図られました。また、緑肥作物を利用した水稻栽培では、緑肥の生育量に応じた減肥が可能となりました。

ミニトマトや夏秋なすでの天敵利用、トルコギキョウにおけるフェロモン資材活用により、農薬低減技術の効果が実証できました。

温室効果ガス排出量削減技術として、トルコギキョウでは、白黒マルチの代わりにパークたい肥を畝上に施用すると、地温が低下し切り花品質が向上することが明らかになりました。夏秋なすでは、紙マルチの利用により地温低下と鋤き込みによる産業廃棄物処理の削減ができました。

化学肥料低減農家

R5：6戸 → R7：32戸

化学合成農薬低減農家

R5：67戸 → R7：91戸

温室効果ガス排出量削減農家

R5：18戸 → R7：29戸



緑肥レンゲの展示ほ場

(2) 環境に配慮した新産地の育成

白ねぎは、新規生産者が2戸増え、鶏ふん等の有機質肥料を施用した作付けが始まりました。

さつまいもは、新規生産者が1戸増え、生分解性マルチが普及し、地場企業への出荷量が増えました。



白ねぎの収穫作業の様子

5 今後の取組

土壌診断を継続し、診断結果に基づく施肥改善を提案し化学肥料の低減を推進します。

化学農薬に頼らない防除技術や温室効果ガス削減技術について、成果のあった新技術は各部会の講習会等で積極的に推進します。

白ねぎとさつまいもは、安定生産を図るため、環境に配慮した肥培管理、適期の病虫害対策および販売体制の確立を支援します。

1 普及活動の主な成果

(2) 田川地域の将来を支える担い手づくり

～新規就農者の定着と担い手の安定経営～

1 課題化の背景

管内の農業従事者は高齢化が進んでおり、新規就農者の確保と定着は急務となっています。新規就農者の早期の経営安定のためには、重点的な技術支援が必要です。

新規参入者を受け入れる際、管内に研修機関はないため関係機関の協議会を主体とした研修機関設立の必要があります。

また、地域農業における担い手の経営安定支援も求められています。

2 対象概況

青年等就農計画策定者のうち就農6年未満の農業者：16名（令和7年3月時点）

経営体育成支援対象経営体：9名

青年農業士：4名、田川地区農業青年クラブ員：5名

青年等就農計画策定者のうち就農6年以上の農業者：13名

3 活動の内容

(1) 新規就農者の定着・体制づくり

認定新規就農者の定着に向けて重点的な技術支援を行いました。新規就農講座を開催し、共通講座として病虫害対策や土壌肥料の講座、制度資金や収入保険制度に関する講座を行いました。

専門講座としていちご栽培の講座を行い『あまおう』の匠と呼ばれる篤農家による現地研修を行いました。

研修機関の設立に向けて、田川地域農業振興協議会総合担い手部会で、先進地である北九州地域農業次世代人材育成協議会の活動について視察研修を実施しました。



北九州市研修機関の視察

(2) 地域計画に位置付けられた担い手の安定経営

重点支援対象として9経営体を選定し、各経営体の技術や経営の課題解決のための支援を行いました。雇用導入を計画している経営体には、県の事業を活用し、社会保険労務士の協力を得て支援を行いました。

1 普及活動の主な成果

4 主な成果

(1) 新規就農者の定着・体制づくり

就農3年以下の新規就農者13名に対し、延べ206回の個別巡回指導と新規就農講座の開催によって、5名の就農者が自ら立てた就農計画の目標を達成しました。

就農7年目の就農者が、認定農業者を目指し経営改善計画を策定しました。

就農計画目標達成者数(3年目)(累計) R6:0名 → R7:5名

経営改善計画策定者数(累計) R6:5名 → R7:6名



新規就農講座(病虫害対策)



『あまおう』の匠による現地研修

(2) 地域計画に位置付けられた担い手の安定経営

各経営体への新品種や新技術の導入支援等を行うことで、5経営体が目標を達成しました。

担い手の所得目標達成者数(累計) R6:1経営体 → R7:6経営体

5 今後の取組

新規就農者に対しては、関係機関と連携したサポートチームでの支援とともに、新規就農講座や新規就農者のつどい等によって仲間づくりや地元農家とのコミュニケーションづくりを図っていきます。

研修機関の設立に向けて、田川地域農業振興協議会総合担い手部会で検討を行い、研修受け入れ農家の協力を得られるよう進めます。

担い手の経営安定には、新品種や新技術の導入支援とともに、デイワーク等の雇用労働力の導入を進めます。

1 普及活動の主な成果

(3) 管内の女性リーダーとなる農業者の活躍促進

1 課題化の背景

田川地域の女性リーダーの高齢化が進んでおり、将来にわたって地域農業を支える女性農業者の育成・支援が喫緊の課題となっています。一方で、女性の認定農業者は着実に増加しており、更なる女性農業者の活躍が期待されています。

そこで、将来の女性リーダー育成と活躍促進を目的として、女性農業者の経営参画と経営改善に取り組む女性農業者の育成に取り組んでいます。

2 対象概況

女性認定農業者 10 名
若手女性農業者 21 名
女性農村アドバイザー及びOB 21 名

3 活動の内容

(1) 女性農業者の経営参画

現状把握のため、女性農業者のリスト更新、基礎データの整備及び経営に関する意向調査を実施しました。また、農業経営における女性の位置づけを明確にするため、家族経営協定や認定農業者の共同申請について、関係機関や農業者への推進を行いました。

(2) 経営改善に取り組む女性農業者の育成

管内の女性農業者を対象とした交流会や県域のキャリアアップ講座等の研修会により、女性農業者の経営改善への意欲増進を図りました。

キャリアアップ講座については、女性農業者に周知を行い、受講後はフォローアップにより、経営改善を支援しました。

4 主な成果

(1) 女性農業者の経営参画

女性農業者 2 名が新たに認定農業者に認定されました。

新規女性認定農業者数（累計）

R6：10名 → R7：12名

(2) 経営改善に取り組む女性農業者の育成

管内で開催した交流会や研修会に延べ 30 名の女性農業者が参加しました。キャリアアップ講座を女性農業者 2 名が受講しました。



女性農業者の研修会

5 今後の取組

女性農業者の活躍促進に向けて、経営参画に取り組む女性農業者への支援を継続していきます。

1 普及活動の主な成果

(4) 水田農業担い手の経営強化

1 課題化の背景

水田農業の担い手の経営強化のため、これまで、麦・大豆の収量及び品質向上に向けて取り組んできました。小麦については穂揃い期追肥の徹底を指導し、タンパク質含有率が県内上位となっており、生産を拡大していくことが望めます。大豆は部分浅耕—工程播種の導入や適期作業を推進することで、令和4年から大豆採種ほが設置されており、基準を満たす種子の生産が必要です。そこで、収益性の高い硬質小麦の面積拡大と大豆の安定生産に向けて取り組んでいます。

2 対象概況

集落営農組織 21 組織
JAたがわ麦・大豆部会
JAたがわ大豆種子生産組合

3 活動の内容

(1) 硬質小麦の面積拡大

硬質小麦の面積拡大を目的として、県内トップクラスの品質を維持するため、適期の管理情報を提供し、穂揃い期追肥の徹底を図りました。

(2) 大豆の安定生産

大豆の安定生産を目的として、大豆の播種前講習会の開催、気象情報や病害虫発生予察情報を基にした栽培管理情報の提供、巡回を伴う個別指導を行い、大豆の収量及び品質の向上を図りました。



普通型コンバインによる大豆収穫

4 主な成果

(1) 硬質小麦の面積拡大

品質向上の取組やJAに対して、ふくれんに面積拡大を働きかけるよう促した結果、3年間で約6割増加しました。

硬質小麦の面積

62ha (R4) →97ha (R7)

(2) 大豆の安定生産

播種前講習会や適切な管理情報の提供により、県平均収量を上回る生産者が3年間で約4割増加しました。

県平均収量以上達成者数

28件 (R4) →39件 (R7)

5 今後の取組

引き続き、硬質小麦及び大豆の収量及び品質の向上に向けて、播種前講習会や管理情報の提供、巡回による適切な栽培技術指導を実施し、水田農業の担い手の経営安定化に貢献していきます。

1 普及活動の主な成果

(5) ICT技術を活用した施設野菜の生産性向上

1 課題化の背景

厳寒期に栽培される野菜の品目部会は、いちご、ミニトマト、ナス部会がありますが、単収の向上が共通の課題でした。また、昨今の資材コストの値上がりにより、新たな設備投資に消極的な農家が多い状況でした。そこで、単収向上の取組として、費用対効果も考慮した環境測定機器をはじめとしたICT技術を活用した栽培管理を提案し、産地全体での生産性の向上を図りました。

2 対象概況

JA たがわ	
いちご部会	12戸
ミニトマト部会	3戸
ナス部会（冬春なすのみ）	1戸

3 活動の内容

(1) ICT機器の有効利用

ICT技術に関する研修会を開催し、ICT機器の活用方法について提案しました。また、ICT機器を貸出して実証ほを設置し、費用対効果を示しながら導入推進を図りました。

(2) 収量向上

他産地とハウス内環境データを共有する体制を構築し栽培管理の比較・改善を行いました。そして、ICT技術を活用する農家を対象に個別支援を行い、データを活用した栽培管理方法の定着を図りました。



ハウス内環境データ活用に向けた個別支援

4 主な成果

(1) ICT機器の有効利用

ICT機器の栽培管理への活用戸数が11戸増加しました。

ICT技術活用農家戸数の推移

項目	部会	R4	R5	R6	R7
ICT技術活用 農家戸数 (戸、累計)	いちご部会	0	3	8	8
	ミニトマト部会	0	1	2	2
	ナス部会	0	1	1	1
	合計	0	5	11	11

(2) 収量向上

ICT技術を活用したことで、10a 当たり収量が前年対比 110%以上となった農家が7戸増加しました。

増収達成農家戸数の推移

項目	部会	R4	R5	R6	R7
増収達成 農家戸数 (戸、累計)	いちご部会	-	1	6	6
	ミニトマト部会	-	0	0	0
	ナス部会	-	1	1	1
	合計	-	2	7	7

5 今後の取組

ハウス内環境データに加え、生育データを農家自身で記録し、比較できる体制を整備し、データを活用した栽培管理による所得向上を引き続き支援します。

1 普及活動の主な成果

(6) 高品質安定生産によるぶどう・なし産地の維持

1 課題化の背景

田川地域のぶどう・なし生産は、生産者の高齢化や樹体の老木化により、栽培面積や販売金額が減少傾向にあります。今後も産地を維持していくため、部会や新規栽培者に対して管理講習会を実施し、栽培技術の向上に努めています。ぶどうではJA たがわ川崎果樹部会に対して新規共販品目として冷蔵シャインマスカットを推進し、販売体制の確立に取り組んでいます。また、なしでは主要品種である『新高』の高温障害果軽減対策を行うとともに、他品種への更新に取り組んでいます。

2 対象概況

管内ぶどう生産者 16戸 5.6ha
管内なし生産者 11戸 4.8ha

3 活動の内容

(1) ぶどう

JA たがわ川崎果樹部会において冷蔵シャインマスカットの実証試験を行いました。また、部会および新規栽培者に対して管理講習会を実施し、栽培技術の向上を図るほか、高温による着色不良対策として着色優良系統の推進を行いました。

(2) なし

『新高』の高温障害果軽減対策として数種類の果実袋を検討する展示ほを設置したほか、高温障害の発生が少ない他品種への更新（高接または改植）を推進しました。また、気象データを活用した栽培情報を提供し、品質向上を図りました。

4 主な成果

(1) ぶどう

冷蔵シャインマスカット実証試験の結果、食味は良好であったものの、果軸の褐変が見られ、次年度に向けた課題が見つかりました。



冷蔵中のシャインマスカット

(2) なし

『新高』の高温障害対策を呼びかけた結果、対策実施面積が増加しました。

『新高』高温障害対策実施面積

0a → 14.7a

5 今後の取組

引き続き講習会や巡回による適切な指導を実施するほか、新規共販品目の確立や高温障害対策に取り組み、果樹産地の維持に貢献していきます。

1 普及活動の主な成果

(7) トルコギキョウ産地の維持及びケイトウ産地の拡大

1 課題化の背景

管内の主要な花き品目であるトルコギキョウとケイトウは、生産者の高齢化に伴う生産面積の縮小や部会員の減少により、共販出荷量が減少しています。

そこで、トルコギキョウでは産地維持を図るため、若手生産者に対する重点支援による共販出荷率の向上とともに新規生産者の掘り起こしと育成に取り組んでいます。また、ケイトウでは産地拡大を図るため、新規生産者の掘り起こしと共販出荷本数の増加に向けた栽培技術指導に取り組んでいます。

2 対象概況

JAたがわ

東部トルコギキョウ部会 9戸

トルコギキョウ専門部 7戸

ケイトウ部会 10戸

3 活動の内容

(1) トルコギキョウ産地の維持

若手生産者の共販出荷率目標を設定し、重点支援を実施しました。品質向上展示ほを設置し、遮熱資材による高温対策、フェロモン資材による害虫対策に取り組みました。

(2) ケイトウ産地の拡大

新規生産者の早期技術習得を支援するため、ベテラン部会員と連携した個別指導を行いました。収穫期の拡大を図るため、二度切り展示ほを設置しました。



ケイトウ新規生産者への定植作業実演指導

4 主な成果

(1) トルコギキョウ産地の維持

若手生産者1名が共販出荷率目標を達成しました。秋出しは害虫の発生が多い作型ですが、予防防除の徹底により共販出荷本数を維持し、県内トップの高単価で販売されました。

共販出荷率の目標達成

若手生産者 1 (名)

秋出し共販出荷本数 165 (千本)

(2) ケイトウ産地の拡大

水稻および野菜生産者が新たに露地ケイトウを導入した結果、共販出荷量は前年から約10千本増加しました。

新規生産者 3 (名)

共販出荷本数 68 (千本)

5 今後の取組

今後も新規作付けを推進するとともに、現地巡回や講習会を通じて、品質向上と安定出荷を支援し、産地の強化を目指します。

2 管内の動き(トピックス)

(1) 青年農業士相互情報交換会を開催

筑豊地区青年農業士会（飯塚、直鞍、田川）は、令和7年11月28日に八幡・行橋支会と合同で相互情報交換会を開催し、青年農業士11名が参加しました。

当日は、青年農業士のOBでもある赤村の（株）鳥越ネットワーク代表の鳥越耕輔氏のほ場で有機セロリの栽培や会社発展の経緯等について説明を受けました。その後は、筑豊地区の会長でもある佐々木仁氏の小松菜のほ場で、経営継承後の発展や作業の効率化について説明を受けました。最後に、意見交換会において懇親を深めました。

普及指導センターは、今後も若手農業者のリーダーである青年農業士の研鑽を支援していきます。



鳥越 耕輔 氏



佐々木 仁 氏

(2) 大豆共進会及び麦共励会で管内経営体が受賞

令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会「集団の部」において、添田町の柘田落合営農組合が優秀賞を受賞しました。同組合は、部分浅耕—工程播種や畝間灌水を実施することで、播種時の降雨や生育期の乾燥といった厳しい気象条件下でも、管内平均を大きく上回る単収を実現した点が評価されました。

また、令和7年度福岡県麦作共励会「農家の部」では、田川市の（株）レインボーファームが優良賞を受賞しました。同社は、水稲・麦・大豆・ミニトマトの複合経営による経営の安定化や採種麦の栽培に取り組んでいるほか、地域計画の担い手として活躍している点が評価されました。

普及指導センターは、引き続き技術指導を行い、田川地域の麦類・大豆の品質向上に貢献していきます。



麦作共励会・大豆作経営改善共進会授賞式

2 管内の動き(トピックス)

(3) 施設園芸の高温対策現地研修会の開催

近年、梅雨明けから9月にかけて猛暑日が続く、ハウス内の気温が高く、小松菜では発芽不良や生育不揃いなどの高温障害が発生し、施設園芸作物の生育や収量に大きく影響しています。そこで、普及指導センターでは、従来使用している遮光ネットと、ハウス内の気温上昇の要因である近赤外線を遮断する遮熱ネットを比較する展示ほを設置し、7月30日に現地研修会を開催しました。

本研修会では、普及指導センターから展示ほの気温・地温の推移について説明し、生産者にハウス内に入ってもらい、ハウス内の高温が抑制されていることを体感してもらいました。本資材を活用することにより収量や品質の向上が見込まれることから、農家の関心は高く、令和8年度は導入面積が増加する見込みです。



試験区の小松菜生育状況



慣行区の小松菜生育状況

(4) 福岡県花き品評会（夏秋咲きギク）で福岡県知事賞を受賞

福岡県花き品評会「技術・ほ場の部（夏秋咲きギク）」施設部門において、田川市の花き生産者 川口 太氏が福岡県知事賞を受賞されました。

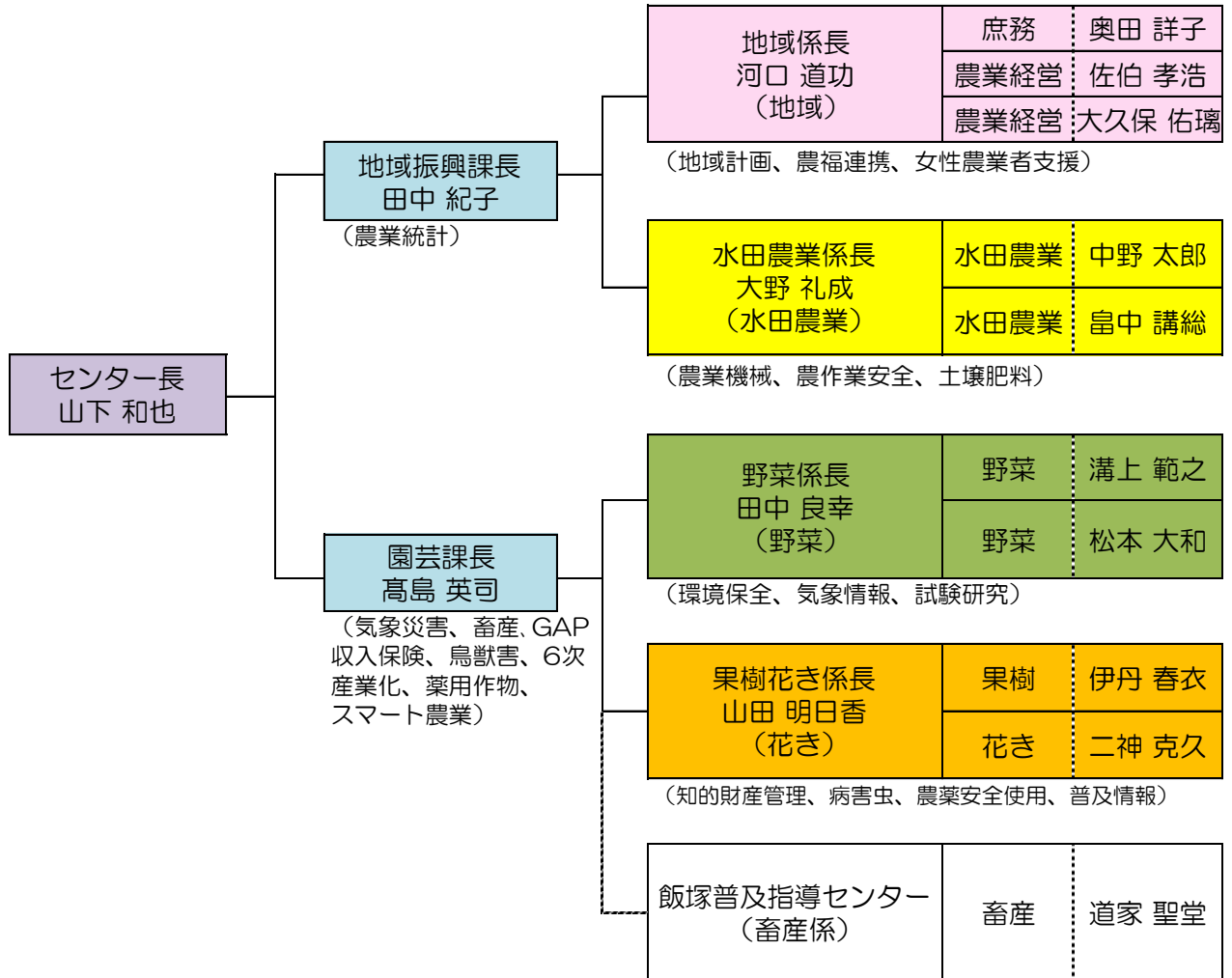
川口氏は2,000坪の施設で、白輪ギクの周年生産を行っています。品質にこだわり、きめ細やかな栽培管理で育てる川口氏のキクは市場でも高い評価を得ています。

当品評会の「技術・ほ場の部」は、ほ場で審査を行うため、ほ場全体の生育の揃いや品質、特級品率のほか、作業環境・管理等も審査項目とされます。川口氏のキク『精の一世』は優れた品質が高く評価されるとともに、行き届いた作業管理も含め、キク生産者としての総合力が評価されたものと思われます。



キク栽培ハウスでの川口氏

(1) 普及指導センターの活動体制

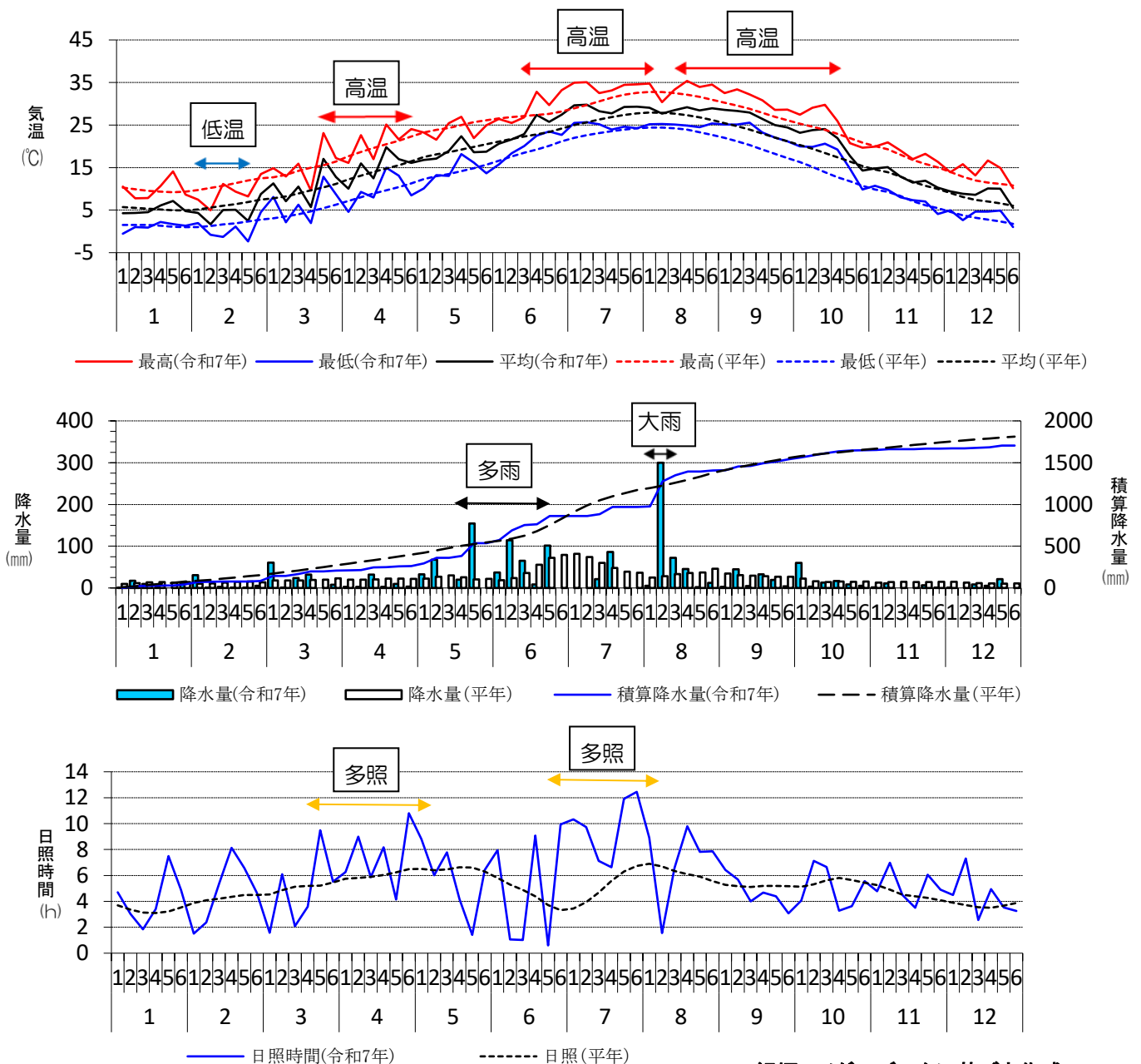


3 参考資料

(2) 令和7年度農業生産の概要

① 気象の概要

令和7年の平均気温は平年より 1.1℃高い 17.1℃、降水量は平年比より 7.4%少ない 1,680 mm、日照時間は平年より 13.5%長い 2,072 時間となりました。梅雨入りは平年より4日遅い6月8日、梅雨明けは平年より 22日早い6月 27 日でした。梅雨明け後から 10 月中旬にかけて高温傾向で推移し、8月9日から8月 11 日にかけては線状降水帯の影響で、総降水量 300 mm を超える記録的な大雨となりました。台風の接近は平年より 1.8 回少ない、2回でした。



飯塚アメダスデータに基づき作成

(2) 令和7年度農業生産の概要

② 主な品目の生産概要

水稲: 早期の梅雨入りや十分な日照により平年を上回る収量

令和7年産の水稲作付面積は1,855haでした(品種割合:『夢つくし』72%、『元気つくし』17%、『ヒノヒカリ』11%)。早期の梅雨入り・梅雨明けと十分な日照により収量は平年を上回りましたが、夏場の高温と少雨により『夢つくし』を中心に白未熟粒が多発し、品質が低下しました。また、イネカメムシや斑点米カメムシ、紋枯病の発生も多く、検査等級に影響しました。福岡県北東部の作況単収指数は102の「やや良」でした。前年に引き続き、市場の品薄傾向により高単価で取引されました。

麦類: 播種遅れや収穫時の梅雨入りがあったものの平年並みの収量

令和7年産の麦類の作付面積は614ha(小麦483ha、大麦131ha)でした。播種遅れによる生育のばらつきがあったものの、収量は平年並の289kg(小麦280kg、大麦323kg)でした。しかし、早期の梅雨入りが原因で『チクゴイズミ』や『ちくし春香』の一部で穂発芽が発生し、一部のほ場では収穫不能となる影響が出ました。検査等級は2等が中心でした。

大豆: 適期播種と防除により平年並みの収量に持ち直す

大豆の作付面積は408haでした。今年の梅雨明けは早く、大豆の播種初期は乾燥害で一部出芽不良や播き直しがありました。8月中旬以降の降雨で生育は旺盛となりました。開花期は平年並みで着莢数も良好でした。病害虫ではハスモンヨトウは少なく、新しい農薬に変更したことにより被害が抑えられました。しかし、カメムシ類の発生が平年より多く、2回防除できなかったほ場では吸汁害による青立ちで減収しました。収穫は早かったものの、青立ち株のために収穫を断念したほ場も見られました。収量は平年並みに持ち直しました。



3 参考資料

(2) 令和7年度農業生産の概要

② 主な品目の生産概要

いちご: 害虫被害は抑えたものの、高温による悪影響が甚大

普通促成作型は、高温の影響で花芽分化が遅れ、定植は9月末が中心となりました。また、炭疽病による枯死株が育苗期に発生し、産地全体で苗不足となりました。ハダニ類、アザミウマ類およびアブラムシ類などの害虫被害は、適期防除を励行したことにより被害の拡大を防ぎました。12月の出荷は、定植期以降の気温が高く推移したことから小玉傾向となりました。

小松菜: 遮熱資材等導入で発芽不良、生育不良が減少

6月までは安定的な出荷が続きましたが、7月から9月は高温が続き、発芽不良や生育不揃いが発生し、収量の減少や品質の悪化が見られました。一方で、遮熱資材や遮光資材等を被覆しているほ場では、被覆していないほ場と比べて生育の揃いが良好でした。10月中旬までは、多くのほ場でハイマダラノメイガ等、チョウ目害虫による食害がありました。11月以降は気温が低下し、冬品種の切り替えとともに、計画的な品種により、安定的な出荷となりました。

アスパラガス: 高温の影響で品質が低下し出荷量が減少

ハウスの保温は2月中旬に始まり、春芽の収穫開始は低温の影響でやや遅れ、3月の出荷量は減少しました。4～5月は順調に出荷量が増加しましたが、6～8月は高温の影響により、ハダニ類とアザミウマ類の被害が増え、また細芽や曲がりによる品質の低下がありました。9月も厳しい残暑が続き、斑点病が発生したハウスがありましたが、出荷量は前年並みでした。

夏秋なす: なり疲れに耐える株づくりを徹底し出荷量が増加

計画的な畝づくりなどの定植準備と、定植後の予防防除を徹底したことにより、定植と初期生育は順調でした。今年は台風による被害もなく、適期防除により目立った病害虫の発生も認められませんでした。また、果実のなり疲れ対策として、7月下旬以降は積極的に葉面積を確保する管理をした結果、出荷量が増加し前年対比139%になりました。

秋冬野菜: 昨年的高温を踏まえた対策により順調な生育と収穫

ブロッコリー、ハクサイおよびダイコンは、8～9月が高温でしたが、前年より定植時期を遅らせたことや、9月中旬以降に適度に降雨があったことから、順調な初期生育となりました。前年発生が多かったヨトウムシ類、黒すす病および軟腐病は、適期防除により回避できました。10月も高温傾向で生育の前進化が心配されましたが、11月が少雨であったため平年どおりの収穫となりました。

(2) 令和7年度農業生産の概要

② 主な品目の生産概要

いちじく: 成熟異常果の発生はあったが、出荷量を維持し、高単価で販売

本年の収穫開始は平年並みの7月中旬となりました。収穫期の高温・乾燥による成熟異常果の発生もありましたが、令和6年度と同程度の出荷量を維持しました。また、適切な選果・選別を徹底したことで市場の評価は高く、高単価で販売されました。

トルコギキョウ: 病害虫防除の徹底により出荷本数を維持

主力の秋出し作型では、ヤガ類やコナジラミ等の害虫の発生が多く見られました。しかし、化学農薬だけでなく、防蛾灯やフェロモン資材等を組み合わせた病害虫防除の徹底により、令和6年度と同程度の出荷本数を維持しました。市場でも高い品質が認められ、県内の最高単価で販売されました。

ケイトウ: 高温少雨傾向であったが、徹底した管理により出荷本数は増加

本年は新たに3名の生産者が、ケイトウ栽培に取り組みました。盆出し作型では、高温少雨の影響による生育のばらつきや、ヤガ類による食害が発生したほ場がみられました。しかし、かん水の徹底や定期的な予防防除により、6～9月の共販出荷本数は、昨年の58千本を上回る68千本となりました。



3 参考資料

(3) 主な実証ほ・展示ほ一覧

対象作物名	課題名	結果概要	設置場所
(国庫関連)実証ほ・展示ほ			
トルコギキョウ	フェロモン剤によるヤガ類の被害防止技術の実証	ヤガ類の交信をかく乱するフェロモン資材を導入したほ場では、未導入ほ場に比べて食害数が抑えられ、虫害抑制効果が実証された。	添田町
トルコギキョウ	夏期における施設内温度上昇抑制のための遮光資材の実証	夏期に赤外放射を遮蔽する遮光資材を被覆することで、トルコギキョウの生育に必要な光量を確保したうえで、気温を最大4～6℃低下できることが実証された。	大任町 添田町
(県単関連)実証ほ・展示ほ			
ケイトウ	盆出しケイトウにおける二度切り栽培の実証	一番花収穫後の切り戻し位置が高いと、立ち本数が過多となり、品質が低下した。一番花収穫時に、地際から20cm程度に切り戻すのが良いと考えられる。	添田町
水稻	奨励品種決定調査現地試験	新系統『ちくし102号』『ちくし105号』は、イネカメムシの影響で『夢つくし』に比べ、収量がやや少なかったものの、検査等級が優れるため、有望と判定した。	田川市
福岡県農業生産資材協会委託、肥料実用化展示ほ			
水稻	水稻肥料「ふわっとJ」の現地適応性の検討	ケイ酸入り水稻一発肥料「ふわっとJ」は、対照区「Jコート2000」に比べて、精玄米重は同程度だが、千粒重は軽く、粃数は少なかった。品質・玄米タンパク含有率は同程度。来年度継続。	香春町

3 参考資料

対象 作物名	課題名	結果概要	設置 場所
田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
いちご	いちごの育苗期における遮熱資材が花芽分化に与える影響の検討	遮熱資材「メガクールネット」被覆区は、無被覆区に比べ、かん水頻度を少なく管理することができたが、やや徒長ぎみの苗質となった。両区における、花芽分化時期に差は見られなかった。	大任町 福智町
いちご	いちごの本ぼかん水管理の違いが生育と収量及ぼす影響の検討	聞き取り調査の結果、高収量農家ほど定植初期のかん水量および頻度が多い傾向が見られた。本ぼ定植期以降の体積含水率およびpF値における相関関係については、引き続き調査が必要である。	田川市 大任町 福智町 糸田町
夏秋なす	夏秋なすの紙マルチ被覆による省力化と地温抑制の検討	紙マルチは黒マルチと比べて、日中の平均地温は2℃低く、昇温抑制となったが、初期生育はやや遅かった。収量は、8月上旬までは少なく、8月下旬～9月中旬は多く、9月下旬以降は少なかった。片付けは省力化した。	赤村
なし	なし『新高』におけるみつ症軽減のための果実袋および袋掛け時期の検討	みつ症軽減効果が期待できる袋は判然としなかった。袋掛け時期を遅らせた効果も判然としなかったことから、6月頃の袋掛けによる多少の温度上昇はみつ症には影響しない可能性が考えられた。	福智町
ぶどう	『シャインマスカット』長期貯蔵の実証	9月に収穫した果実を冷蔵貯蔵したところ、約1か月後に果軸の褐変を確認した。冷蔵庫内の温湿度に大きな問題はなかったことから、貯蔵に使用した袋が適していなかった可能性が考えられた。	川崎町
トルコギキョウ	ベラボンマルチによる地温低下および生育・品質への影響の検討	ベラボンやバークたい肥を用いた有機物マルチを行うと、慣行の白黒マルチより地温が低下し、トルコギキョウの早期開花を抑制して品質が向上することが明らかになった。	大任町
トルコギキョウ	秋出しトルコギキョウにおける品種適性の検討	白色新品種『セレブ3型リッチホワイト』は、既存品種より花径が小さかった。ピンク色新品種『マキア3型ライトピンク』は、2枝がやや多いものの草丈を十分確保できた。	田川市 添田町 川崎町
養豚	剪定チップを活用した豚床の検証及び冬季の泥濘化防止技術の検討	豚舎内の換気や豚床資材を変更したことにより、豚舎内の結露防止や豚床の泥濘化が軽減し、死亡事故が大きく減少する見込み。	赤村

3 参考資料

(4) 現地活動情報一覧

No	標 題	日付	係
1	田川地区農村女性グループ連絡研究会総会・研修会開催 ～女性農業者の活動を支援～	5/7	地域
2	JA たがわで豆類の出荷始まる ～ソラマメ、スナップエンドウの出荷開始～	5/12	野菜
3	大豆播種前講習会を開催 ～単収 150 kgを目指して～	6/13	水田農業
4	大豆の播種が開始 ～収量 150 kg/10a を目指して～	7/3	水田農業
5	レンゲ米栽培講習会を開催 ～化学肥料使用量の削減や環境負荷低減を目指して～	7/5	水田農業
6	「あまおう」の匠による新規就農者向け研修会を開催 ～匠ならではの視点で新規就農者を支援～	7/16	野菜
7	田川4Hクラブ員が九州・沖縄地区青年農業者会議に出場 ～就農エピソードや農業への思いを語る～	7/23	果樹花き
8	JA たがわ川崎果樹部会現地検討会を開催 ～果実品質の向上を目指して～	7/23	果樹花き
9	添田町の盆出し花きが順調に生育 ～JA たがわ花卉部会添田支部現地検討会開催～	7/25	果樹花き
10	遮熱資材比較試験現地研修会の開催 ～高温期の安定生産・品質維持を目指して～	8/4	野菜
11	新規就農者向け新規就農講座を開催 ～早期の経営確立を目指して～	8/7	地域
12	園芸品目の高温対策について展示ほを設置 ～田川農振協園芸畜産部会現地調査～	10/1	果樹花き

3 参考資料

13	田川地域新規就農者のつどいを開催 ～先輩就農者からの学びと仲間づくり～	10/16	地域
14	麦播種前講習会を開催 ～麦類の収量品質の更なる向上を図る～	10/29	水田農業
15	大豆の収穫開始 ～令和7年産大豆は多収の見込み～	11/11	水田農業
16	飯塚・田川地域女性農業者研修会を開催 ～女性農業者のネットワークづくりを支援～	11/14	地域
17	田川地域農業経営研修会を開催 ～労働力の確保と労務管理について学ぶ～	11/20	地域
18	「あまおう」の匠による新規農家向け第2回研修会を開催 ～ICT 技術を活用した厳寒期の管理方法を伝授～	12/11	野菜
19	JA たがわ川崎果樹部会の新たな共販品目を作ろう！ ～冷蔵シャインマスカット検討会を開催～	12/16	果樹花き
20	農業経営における SNS と AI の活用について学ぶ ～田川地域農業経営研修会を開催～	1/30	地域
21	田川4Hクラブ員が福岡県青年農業者会議で県知事賞を受賞 ～意見発表の部で九州大会への出場が決定～	2/12	水田農業



田川普及指導センターのホームページに掲載中
(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/katsudou-tag2025.html>)

周辺地図



庁舎への交通アクセス

JR等

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川伊田」駅から
徒歩約 15 分 (1.2km)

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川後藤寺」駅から
徒歩約 20 分 (1.7km)

西鉄バス

田川市役所バス停から
徒歩約 10 分 (700m)

車

国道 201 号線「長浦」交差点
から約 6 分 (2.5km)



福岡県飯塚農林事務所 田川普及指導センター

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2741 番地の 5

TEL : 0947-42-1428 FAX : 0947-44-1891

E-mail : tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704901.html>

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703427
------------	------------------

登録年度 07	登録番号 0001
------------	--------------